2019年度先生のための気象教育セミナー実施報告

教育と普及委員会

教育と普及委員会では，活動目標の一つである「学校教育における気象学・大気科学の充実促進」を図るため，気象が専門ではないが，教えなくてはならない先生方の悩みに応えることを目的とした気象教育懇談会を2016年度より実施している．

2019年度は，「地球温暖化をどう教え，考えさせるか」をテーマに行ったので，それについて報告する．

1．概要

開催日時及び場所

2020年1月5日（月）13：30〜17：30

一般財団法人 日本気象協会会議室（東京都豊島区）

内容

(1) 気象キャスターが教える温暖化（50分）
講師：南　利幸（気象キャスター）

(2) 気候変動ミステリー（90分）
講師：高橋敬子（立教大学 ESD 研究所）

(3) 防災教育の実践例紹介（40分）
講師：荒川知子（田園調布学園）

(4) 懇談

参加者

23名（中学校4名，中学・高校8名，高校7名，その他4名）

2．実施状況

平松委員長の開催挨拶の後，南　利幸委員が講師として，「キャスターが教える温暖化」の講義を行った．クイズを交えながらの講義で，写真を見て「このクモの名前は？」「1．コガネグモ，2．ハエトリグモ，3．セアカゴケグモ，4．ニュウドウグモ」など，参加者が楽しみながら学ぶ時間となった．

次いで，立教大学 ESD 研究所の高橋敬子氏を講師として，「気候変動ミステリー」のワークショップを行った．これは25枚のカードに書かれている事項から，その関連性を見出し，問題の解決方法を探っていくものである．同じカードを使っても，その関連の見出し方はグループによって異なり，グループでの結果発表では，それぞれが新たな視点を得ることができていたようである．また，これを受けて各グループが新たなカードの作成に取り組んだ．気候変動という言葉は使わず，具体的な現象として考えられること，などの視点からカードを作成した．「脱サラでスキー宿を始めたが，雪がなくて困っている○○さん」，「年間に発生するゲリラ豪雨の回数の変化」「高校野球の熱中症対策」など，すぐにでも使えそうなアイデアが出された．温暖化を教えるだけではなく，生徒が主体的に考え，取り組んでいくための新たな方法を得られるワークショップであった．

最後に荒川知子委員から，勤務校で行った防災教育についての紹介があった．防災訓練の際，大雨・洪

第1図　南講師による講義の様子．

第2図　講師のアドバイスを受けながらのワーク．

第3図　グループごとに新たな発見のある発表の様子.

水・雷等について解説するスライドとシナリオを用意し，全教員が生徒に解説することで，生徒・教員共に意識が高まったというものである．気象災害については，防災訓練等で取り組んでいない学校が多く，提供されたスライドを早速使ってみたいとの感想を聞くことができた．最後に，参加者同士で情報交換の機会を持った．

日本気象協会会議室は池袋サンシャインビルの55階にあり，天気の良かったこの日は，休み時間に房総半島までの眺望も楽しむことができた．防災教育紹介の時間は日没と重なり，講義を一時中断し臨時の撮影タイムとなるなど，臨機応変の対応で楽しく学べた一日であった．

第4図　参加者全員での記念撮影.

3．成果など

受講者に行ったアンケートの結果から，どの講義も興味深いとの回答を得た．参加者の約半数が初めての参加者であったが，複数回参加者も多く，この形の研修スタイルになってから欠かさず参加している方も1割程度いた．

今回はテーマとして温暖化と防災を取り上げたが，理科のみならず他教科の教員にも関わるものであり，正しい知識や新しい手法を身につける良い機会となったようである．参加者の希望としては，「簡単な教材作成」が最も多く，次いで「防災」，「温暖化」となっており，今後も引き続き同じようなテーマで異なる切り口のセミナーを検討したい．

最後に，今回の会場と防災に関するDVDのご提供に協力いただいた一般財団法人日本気象協会に感謝申し上げます．